

山名	龍門山	山行名	龍門山（例会）	
ルート	登山者用駐車場→一本松→田代峠→龍門山→中央コース入口→一本松→駐車場			
山行日	令和2年12月10日	天候	晴れ	
参加者	CL：藤村 SL：西川 伊藤多恵子 河野 大林 佐々木			
	コースタイム		明神岩着	13:00
	地名	時：分	明神岩発	13:20
	登山者用駐車場発	9:10	中央コース登山口着	13:55
	一本松着	10:05	一本松着	14:10
	田代峠着	11:20	駐車場着	14:55
	龍門山着	12:05		
	龍門山発	12:40		

12月上旬になると季節外れの寒波がくる年もあるので、温かい紀州の龍門山を計画する。当初申し込み者が少なく車で実施した場合費用が高くなると懸念したが、最終的に6名の方の申し込みがあり安心する。天候もよく昼には16度になり温かく、又無風で頂上から紀の川市内や紀の川を挟んだ北側の和泉山脈も眺めることができ気持ちのよい山行である。登山者用駐車場に9時前に到着するも、先客はなく私達だけである。終日他の登山者を見ることはなかった。紀州富士と呼ばれているが、駐車場から見る姿は円錐形ではなく台形の形である。出発後暫く民家の中を通り、やがて急な登り坂になり道の両側にみかんや桃、キウイの果樹園が現れる。世間話をしながらその中を登る。道の脇で果樹木の枝払いをしている農家の方もいた。

登山者用駐車場到着直前に山麓近くの別の駐車場に止めてはどうかとの意見がある。もしそこに駐車すればかなりの時間短縮にはなるが、その場所は駐車台数が少ないと案内書に記されていたので駐車場所を正確に調べておらず、予定通り登山者用駐車場に止める。果樹園を抜けると山麓方面の駐車場の看板があるが、ここまでの道は狭く急でハイエースでは無理であると西川さんが話し、無理をせずによかったと納得する。一本松から田代コースに進むと「ちりなし池」の看板があるが、NETでは評判がよくなく、無視して登り続ける。田代峠までは、雑木林の中で光も差し込まず少し寒く感じる。田代峠に到着すると一気に視界が広がり、日当たりもよく気分爽快になる。田代峠からは更に急坂を20分程登ると磁石岩がある。早速磁石を当てると噂通り磁北が逆となる。

龍門山の頂上は5月下旬にはキイシモチの花に囲まれているが、今回は枯れ草だけである。昼食を眺望がよい芝草の広場です。頂上から西方向に下りすぐのY字路を右に進み中央コースに出る。道はかなりの急斜面の下りで慎重に足を運ぶ。途中で明神岩の看板があり右に曲がり明神岩にでる。明神岩の上で若いクライマー2名がこの垂直岩に登り道具を片付けていた。どれほどの岩なのか横に回り見ると、頂上部分が大きく張り出した一枚岩でよく登れたものであると感心する。岩にはクライム用にハーケンが打ち込みされていた。その隣には楠木正成が隠れたと言われる風穴洞もある。見学後元の道に戻り約30分下ると中央コース入口に着く。中央コース入口から一本松まで舗装された農道を、色着いた山麓の景色を眺め歩く。頭上にはハングライダーが空中を浮遊していた。一本松から元の道に戻り15分早く駐車場に到着する。予定通りなので西国33カ所3番札所の粉河寺を見学する。ヒヤリハットなし

絶好のハイキング日和！と書くのも何回目だろう…この秋・初冬はお天気恵まれて、「ワタシが晴れ男！」「いや、ワタシこそ晴れ女！」と言っても意味がなくなりました。雨が降らずに困っている人もいるのではないかしら。それでも、ポカポカ陽気の中、紅葉の山並みを眺めながら歩くのは気分がいいこと！つくづく歩けることの幸せを感じました。

登り始めは、果樹園の間に作られた急なコンクリート道。ここが一番息が上がりました。稜線に出ると、木々が葉を落として明るい尾根に。サクサクと枯れ葉を踏みしめ、日差しを一杯に受けて歩きます。今日もNさん、Oさんの手作りのおやつを頂いてお腹も一杯。

下りに現れた明神岩で二人のロック・クライマーに出会いました。崖を覗き込むとめまいがしそうなオーバーハング。ザックを支えてもらいながらこわごわ覗き込みました。下り道の眺めは素晴らしかったです。向こうに連なるダイヤモンド・トレイルや、紀ノ川を見下ろしながら、再び、柿、桃、キウイ、沢山の種類のミカン類の畑の間を抜けて行きました。行きに畑で作業していた人たちの多くは、帰りにも作業中。平日にぶらぶらしている私たちがちょっと申し訳ない気分。下校途中の小学生に「どこに登って来たの？」と問われて「龍門山だよ」と答えると、その男の子は手のひらを垂直に立てて「こーんな壁が」と。その時は、「？」と思ったけど、後で明神岩のことだと納得。その子はいずれあそこを登るかもなあ～。

西国第三番札所の粉河寺に立ち寄りしましたが、古くて立派なお寺です。境内にはクスの巨樹があります。ところで、同じ敷地内にある神社にいた鶏と孔雀を眺めていたら、話し好きのおじさんが現れて…。4羽の鶏それぞれの関係やら性格やら卵の抱き方やら、孔雀についてのウンチクやら。面白かったけど、先行の三人を待たせてしまいました。（ごめんなさい。）

はるばる和歌山まで車で連れて行ってくれたCL、SLお二人にただただ感謝です。



龍門山山頂



粉河寺